

『同和問題に関する直接的指導のタイプ』
明治小学校 第6学年社会科学学習指導案

1 単元名 世界に歩み出した日本

2 単元観

本単元は、学習指導要領の第6学年の目標(1)・(3)及び内容(1)のクに基づいて設定した。

(目標)

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心を育てるようにする。 |
| (3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基本的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。 |

(内容)

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。 |
| ク 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。 |

本小単元では、明治中・後期から大正における、大日本帝国憲法発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などの歴史的な事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことがわかるようにすることをねらいとしている。

大政奉還後、日本は大日本帝国憲法の発布や帝国議会の開設、日清・日露戦争の勝利によって国力も充実し、対外的にも条約改正を果たすなど、国際的地位も向上していった。その一方で、国内では女子労働問題に代表される経済・人権問題、国際的には武力による中国の侵略や朝鮮半島の支配、それに伴う民族差別等の問題も生じてきた。

また、本単元では、特に、解放令後も差別され続ける人々が、自らの手で立ち上がり、「全国水平社」を結成し、差別解消に向け運動したことやその運動が全国へと拡大するきっかけとなる事件を取り上げ、人権への意識が徐々に芽生えてきたことを学習する。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

日本が様々な分野で世界へ進出していったことやそれに関わる人々の働きに関心をもち、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、条約改正を求める国民の願いや日清・日露戦争の背景やその影響を考え、我が国の国力が充実して国際的地位が向上し、社会が変化していったことが分かる。

(2) 評価規準

- ・ 日本が様々な分野で世界へ進出していったことやそれに関わる人々の働きに関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究している。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 条約改正を求める国民の願いや、日清・日露戦争の勝利で国際的地位が向上した反面、中国の侵略や朝鮮半島の支配、それに伴う民族差別などの問題が生じたことに気づき、それに関連する意見をもつことができる。
- ・ 全国水平社運動について調べることにより、設立の目的や経緯を理解し、差別の不合理に対して立ち上がった人々の行動について考えることができる。
(社会的な思考・判断)
- ・ 大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて、年表や文章資料などの各種の基本的な資料を活用して調べることができる。
(観察・資料活用の技能・表現)
- ・ 我が国の国力が充実して国際的地位が向上し社会が変化していったことが分かる。
(社会的事象についての知識・理解)

4 本時の資料について

日本で初めての人権宣言と言われる水平社宣言は、差別解消のために自ら立ち上がらなければならないと訴えた人々により作られた。そして、その思想と精神を引き継ぎ、勇気をもって闘った人々によって運動は広がっていった。そこで児童が自分自身で問題意識をもち、主体的に学習するために、以下の3点の資料を用いて歴史的な事象を取り上げ、それに関係した人々の思いに共感していくことこそが差別解消につながると考えた。

(1) 資料① 解放歌について

水平社運動が全国へ広がっていく中で、より団結するために歌われた解放歌(水平歌)がある。人々の思いが詰まった解放歌を授業の導入で扱い、関心を高めたい。

- (2) 資料② 水平社宣言文について
西光万吉によって起草された。部落差別をなくそうと全国にいる被差別部落民300万人に熱意と誇りを訴えた宣言文である。ここでは、わかりやすく、なおかつ抜粋して小学生にも理解しやすいようにした。
- (3) 資料③ 別府的ヶ浜焼き打ち事件
全国水平社運動が大きくなった背景には、多くの差別事件や差別裁判があった。この別府的ヶ浜焼き打ち事件は、全国水平社が結成された直後に起きた事件で、被差別部落の立場にある人々の人権を無視した事件である。被差別部落の人々の怒りや苦しみに共感し、このような事件等が水平社運動の全国への広がり原動力になっていたことを理解させたい。

5 人権教育との関連

明治時代から、条約改正に向けて国際的地位を向上させようとしていた日本は、日清・日露戦争を起し、その中で、中国や朝鮮半島に住む人々に対する人権侵害をしている。国内でも人権侵害に対して民主主義を求めようとする運動が展開された。また、江戸時代の身分制度で、「農民や町民とは異なる身分」に置かれた人々は、解放令後も差別を受け続けていたことを理解させ、差別を受け続けた人々の気持ちを考えさせることで、差別の不当性を感じ取らせたい。さらに、差別解消に向けて自らの手で立ち上がり、「全国水平社」を結成したことや水平社運動が全国へ広がりを見せるきっかけとなる別府的ヶ浜焼き打ち事件を取り上げ、事件について考えていくことは、差別解消のために自分はどう行動したらよいか考える力を育てる素地を養うものである。

この内容は、本校人権教育の目標である「よく考え、正しく行動をする子」の育成につながるものであり、これは高学年の目標「相手の立場や考えを尊重し、お互いに助け合える子」につながるものである。

6 指導計画（総時数 8時間 本時7/8）

時	主な学習活動	評価			
		関	思	技	知
1	○グラフなどの資料から、明治時代の産業がどう変化していったかに関心をもち、学習問題を作る。	○			
2	○不平等条約が日本にどのような影響を与えたか、また、条約改正にかかわる陸奥宗光の願いや働きを、資料から読みとってまとめる。			○	
3	○日清・日露戦争によって日本と世界の国々との関係はどのように変わっていったのか考え、まとめる。		○		
4	○日本が朝鮮半島を植民地にして勢力をのぼし、条約改正を果たしたことで欧米諸国と対等な地位を築いたことを理解する。				○
5	○国際社会での日本人の活躍が国力の充実や国際的な地位向上につながったことを考え、まとめる。		○		
6	○産業の発展が労働問題、公害問題など様々な面で人々の生活に変化をもたらしたことを理解する				○
7 本時	○水平社運動のおこりや差別解消のため闘う人たちの行動について自分の考えをまとめる。		○		
8	○本小単元をふり返り、登場した人物や事件など、立場を変えながら話し合うことができる。	○	○		

7 本時の指導

(1) 題目 全国水平社運動

(2) ねらい

全国水平社の起りや差別と闘った人たちの思いを共感的に理解し、不当な差別を受け続けた人々が、自分たちの力で立ち上がったことや、差別解消のため進んで行動したことについて、自分の意見をまとめることができる。
(社会的な思考・判断)

(3) 人権教育の視点

解放令以降も不当に差別され続けた人々が、自らの手で「全国水平社」を結成したり、差別と闘ったりしたことを調べることを通して、差別の不合理や運動に携わった人々の強い意志を感じ取らせたい。

このことは、本校人権教育で育てたい能力・態度高学年の感受性②「友達の意見や立場を考え、その気持ちを考えようとする。」知性①「日常生活のいろいろな差別や偏見の原因

が分かる。」にかかわるものである。

(4) 展開 (別紙1)

8 参考文献

- ・「水平社宣言・解放歌」 解放出版社
- ・「全国水平社を支えた人びと」 解放出版社
- ・「明るい展望のもてる指導の工夫」 県教委
- ・「別府的ヶ浜焼き打ち事件」 部落解放同盟大分県連合会
- ・長野県同和教育推進協議会「あけぼの」資料編増補版改訂版の改作
- ・大正時代の下野新聞

(別紙1)

(4) 展開

○学校課題との関連 ※人権教育上の配慮

具体目標	学 習 活 動	教 師 の 支 援	資 料
○本時の学習課題をつかむことができる。	1 解放歌を聴いて、感想を述べて、全国水平社について学習していくことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 解放歌から伝わってくるイメージを発表させ、本時の課題につなげる。 この歌は、差別され続けた人にとって欠かすことのできないものだったと伝え、学習への関心につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> CD PC 大画面テレビ
差別され続けた人々の行動について自分の考えをまとめよう。			
○大正時代の差別解消に向け、全国水平社を立ち上げた人々の様子や宣言文に込められた願いについて理解することができる。	2 全国水平社の起こりや水平社宣言について資料から読みとる。 (1)差別歴史の流れを復習する。 (2)大正時代の差別の実態を知る。 (3)差別され続けた人々がとった行動を予想する。 (4)水平社宣言から、自らの解放を自らの手で勝ち取ろうとした熱意と願いを読みとる。	<ul style="list-style-type: none"> ※解放令以降も差別が続いており、厳しい暮らしや辛い思いをしてきたことを押さえ、自ら立ち上がった人々の行動を予想させることにつなげる。 ※自分たちの力で差別をなくそうと立ち上がった人々の思いや力強さを感じ取らせる。 ※人間平等を訴えた日本で初めての人権宣言の精神を読みとらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> PC 大画面テレビ 資料1 資料2
○水平社運動が全国へ広がったきっかけについて友達と話し合い、自分のできる。	3 別府的ヶ浜焼き打ち事件を知る。 (1)事件を読みとる。 (2)事件についてペアで話し合う。 (3)発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 別府的ヶ浜焼き打ち事件の資料は児童向けに簡単にしたものを配付する。 ※被差別部落の人々の立場になって事件を考えさせる。 ○ペアの話し合い活動は、必要に応じて友達の意見を取り入れるとともに、相手の考えに共感や賞賛するようにする。 水平社の設立後も、すぐには差別がなくなったわけではないことに気付かせる。 このような事件が、水平社運動の全国への拡大につながっていくことをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料3 ワークシート
○全国水平社をつくらせた人々の意見や感想をもつことができる。	4 本時の学習について、自分の考えをまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ※差別を受けてきた人々が、自分たちの力で差別解消を目指した行動について、改めて考えさせる。 ※できるだけ多くの児童に発表させる。 解放歌を聴かせ、水平社運動に参加した人々の思いを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート CD PC 大画面テレビ
評価の観点	全国水平社の起こりや差別解消に向けて、多くの人々が自ら立ち上がって行動したことに共感的に理解し、自分の意見をまとめることができる。 (社会的な思考・判断・表現)		
評価の方法	学習活動4の活動の観察とワークシートから評価する。		
十分満足な状況 全国水平社の起こりや差別解消に向けて、多くの人々が自ら立ち上がって行動したことに共感や賛同的な考えをもつとともに、自身も差別解消を望む意見を表現することができる。	おおむね満足できる状況 全国水平社の起こりや差別解消に向け、多くの人々が自ら立ち上がって行動したことに共感や賛同的な考えを表現している。	努力を要する児童への手だて 別府的ヶ浜焼き打ち事件を再度説明し、差別を解消するためには、多くの人々の協力が必要であったと助言した上で、感じたことを表現させる。	

世界に歩みだした日本

めあて **差別され続けた人々の行動について自分の考えをまとめよう。**

資料1

差別され続けてきた人々の大正時代の生活の様子

① 学校

教室の後ろのすみに、ほかの子どもたちとは机をはなして並ばされました。また、いじめられて悲しくて、先生に話しても、「身分が違うんだからあきらめろ。」と言われ、相談にのってもらえませんでした。

② 家や結婚

『農民・町人とはことなる身分』出身ということがわかると、家は貸してもらえず、今までの場所に住むしかありませんでした。また、結婚も自由にはできませんでした。

ながのけんどうわきよういくすいしんきようぎかい しりようへんぞうほばんかいていばん かいさく
(長野県同和教育推進協議会「あけぼの」資料編増補版改訂版の改作)

③ 栃木県

〇〇郡A村の浴場では、私たちを入浴させてくれませんでした。そして、私たちの入る浴場と他の人たちが入る浴場と別々に作ろうとしたので、「これは差別だ。」と言って、とても怒りました。

どちらかに○をつけよう

差別はなくなった。()
差別は残っていた。()

しもつけしんぶん
(大正時代の下野新聞より)

資料2

水平社宣言 (わかりやすく、一部ぬき取っています)

宣言

全国各地で、歯を食いしばって生きている300万人の**※被差別部落**のみなさん、今こそ手を取り合って進みましょう。

長い間(約300年間)いじめられ差別をうけてきた被差別部落のみなさん。

1871年(明治4年)の解放令から約50年、私たちのためといって、多くの人々によって差別をなくすための運動が行われてきました。

しかし、それらの運動はあまり役に立ちませんでした。

私たちは私たちの手で部落差別をなくしていくのです。

私たちは政府の身勝手な政治によってつくられた身分制度の犠牲者であったが、世の中に欠かすことのできない仕事にたずさわり、社会を支える存在でもあったのです。

私たちが、被差別部落の人間であることを誇りうる時代がやってきたのです。

私たちは、この世の中が、私たちを差別することのみにくさに気がつかない人や、差別されることのつらさに気がつかない人々が多くいる冷たい世の中だということを知っています。

だから私たちは、心から人間の尊さやあたたかさが大切にされる、差別のない世の中を心から願うものなのです。

水平社はこうして生まれました。

人の世に熱あれ、人間に光りあれ

1922年(大正11年)3月

水平社

※被差別部落・・・差別を受けている地域

資料3

別府的ヶ浜焼き打ち事件

全国水平社ぜんこくすいへいしゃがつくられてすぐの1922年(大正11年)3月25日に、大分県別府的ヶ浜おおいたけんべつぶまどがはまにあった数十戸の家屋すうじゆつこが警察かおくけいさつによって焼き払やられるという異常いじような事件じけんが起きました。これが『別府的ヶ浜焼き打ち事件』です。なぜ平和へいわに生活せいかつしていた人たちの家に放火ほうかしたのでしょうか。

近日きんじつ開かれる赤十字社せきじゆうじしや大分支部おおいたしぶ総会そうかいに皇族こうぞくが来県らいけんし、列車れつしやの中からの的ヶ浜まとがはまにある『弓掛けの松』(源為朝みなもとためともが弓ゆみを立て掛けたと伝えられる)をかご覧らんになることになりました。景色けしきの中にまずしい部落ぶらくがあると、不愉快ふゆかいな気持ちこころになられてしまうかもしれないとの理由りゆうで焼き払やったというのです。

焼き払やわれた人々の助けにあたった篠崎蓮乗しのざきれんじようの『別府的ヶ浜事件真相』によると16軒80名が被害ひがいにあい、また助けようとしても警察けいさつが妨害ぼうがいしてきたそうです。

この事件じけんについて、当時の新聞とうじしんぶんも警察けいさつのやり方に厳きびしい批判きはんをしました。そのため、帝国議会ていこくぎかいで人権問題じんけんもんだいとして論議ろんぎされ大分地方検事局おおいたちほうけんじきよくの取調べとりしらにまで発展はつてんしましたが、結局けつぎは「説得せつとくによって自分たちで取り壊こわした」という警察側けいさつがわの主張しゆちようにそった解決かいけつとなりました。

この事件じけんを重おもく見た全国水平社ぜんこくすいへいは、創立者そうりつしやの一人米田富よねだとみを派遣はけんし、篠崎蓮乗しのざきれんじようとともに、各地かくちでの的ヶ浜焼き打ち事件べつぶまどがはまうじけんの真相しんそうを語り地域かたごとの水平社ちいさの設立すいへいしゃの必要せつりつを訴えました。

この事件じけんについて思ったこと。

じつさい しんぶん
実際に新聞にものりました。

◎水平社運動すいへいしやうんどうが () へ広がる。

◎全国水平社ぜんこくすいへいしゃの活動かつどうや今後の自分の行動こうどうについて考えをまとめよう。

